

平成26年度 事業計画書
(平成26年4月1日～平成27年3月31日まで)

主要活動テーマ

1. 研究助成プログラムの開始

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を対象としたコミュニケーション、印刷複製、表現の理論、技術、知識、歴史などをテーマとする研究に対して助成を行い、わが国および世界のグラフィックデザイン、グラフィックアートの発展と、その文化の振興に貢献することを目的とします。

グラフィックデザイン・グラフィックアートの学術的な研究は、まだ歴史も浅く発展途上といえます。こうしたテーマに取り組む研究者をサポートすることは、当財団が従来、推進してきたアーカイブ事業、教育普及事業等と相乗効果をもたらすものと考えます。また、プログラムの推進は、継続的に展開することや、より多くの研究者から賛同をいただくことが重要で、スタート時点でできるだけ広く告知することを計画しています。

助成対象の研究分野

A 部門 (グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする研究)

B 部門 (グラフィックデザイナー、田中一光に関する研究)

当財団が保有する田中一光アーカイブ(ポスター・版画・書籍・原画等の作品、写真・蔵書・書類等の関連資料)を活用した、田中一光(1930-2002)のデザイン活動、時代考察、社会的意義などをテーマとした研究。

2. dddギャラリーの京都・太秦への移転

dddギャラリーは、1991年に大阪・堂島に開設され、2007年に現在の難波に移転しました。今回、従来のグラフィックデザインをテーマとするギャラリーの基本機能は継続し、いままで積み上げてきた実績をベースとして、更なる活動強化のために京都・太秦に移転を計画します。

展示スペースが、現在の80㎡から約200㎡にひろがり、デザイン・アート教育も盛んなエリア特性を活かし研究機関との接点を深め、観光都市、京都を訪れる国際的な集客・情報発信を図ることを目指します。

1. アーカイブ事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等に関する作品や資料の収集、保存及びその公開を行なう。また、活動に関わる諸テーマについて、独自で調査、研究を実施すると共に、国内外機関・個人との共同研究等も行なう。【定款 第4条(1)、(3)、(6)】

平成26年度は、収蔵ポスター作品をデジタルデータに変換して保存する作業を開始する。特に田中一光ポスター作品を極めて高解像度の画像データに変換・作成し保存する。

ポスターアーカイブは、追加寄贈いただける作家からの体系的な寄贈を受け入れ、田中一光、福田繁雄、永井一正のポスターアーカイブ寄託品を海外美術館等へ寄贈する活動を推進する。

将来的にアーカイブ作品を一般に公開する仕組みやアーカイブセンターとしての機能を引き続き抽出・検討する。

(1) 田中一光アーカイブ

平成26年度は、ポスター作品の高解像度画像データによる保存、また、ポスターが制作された当時の製版・印刷にかかわる技術・ノウハウを実務担当者からのヒヤリング調査によってデータ化を進める。同時に作品以外の資料類などのデータの精緻化、保存状態の最適化を進める。

(2) ポスターアーカイブ

国内外の現代グラフィックデザインの秀作を次世代に文化遺産として残すための収集活動を継続する。

現時点では、国内 111 作家、海外 110 作家、計 210 作家、11,783 作品を収蔵している。平成26年度は、すでに寄贈いただいているデザイナー3 名(秋田寛、浅葉克己、佐藤可士和)の追加収蔵を予定している。

(3) タイラーグラフィックス・アーカイブ

平成26年度、タイラーグラフィックスのコレクションによる収蔵品展をCCGAにて2回開催する。また、他の美術館への作品の貸し出しも行なう。

・貸し出し予定館： 奈良県立美術館

・会期： 平成26年4月12日 ～ 5月25日

・展覧会タイトル： アメリカ現代美術の巨匠達～タイラーグラフィックス

CCGA 現代グラフィックアートセンター所蔵版画名品展

・貸し出し作品： 104点

2. 展示事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とする優れた作品等の展示活動を行なう。展示企画内容により、必要に応じて国内外機関、個人との共同研究等を行ない、また、展示施設の管理運営を行なう。【定款 第4条(2)、(6)】

グラフィックデザインならびにグラフィックアート作品に関する鑑賞・体験機会を一般に広く提供するため、独自の展覧会を企画する。展覧会は、東京都 ggg、大阪府 ddd（当年度内、京都・太秦移転予定）、福島県 CCGA の3展示施設で開催する。

平成26年度は、次ページに記載した予定表に従って展覧会を開催する。

・gggでは、2011年にdddで開催した「phono/graph 展」を5月に開催予定。本企画展は、「音、文字、デザイン」がテーマで、ドイツ・ドルトムントや名古屋芸術大学などへの巡回を経て、今回、新たな展示作品で開催する。8月「ひびのこづえ展」では、NHK 番組「にほんごであそぼ」と連携して、新たな客層の来場を目指す。

また、11月「ペルソナ展」は、50年前に開催されたグラフィックデザインのシンボリックなイベントをテーマとして、デザインの変化と動向を示す。

・dddギャラリーは、展示スペースの拡大、グローバルな集客と情報発信、新たなデザイン領域との接点拡大を目指して移転計画を推進する。

ddd企画展は、平成26年2月、3月にgggで開催した「指を置く展」と「福島治展」を巡回し、新しい視覚デザインの可能性、ソーシャルデザインの可能性をアピールする。

・CCGA では、2回の「タイラーグラフィックス・アーカイブ展」のほか、dddからの巡回で「大阪新美術館建設準備室デザインコレクション展」を開催する。

・dddギャラリーの移転計画

移転先： 京都市右京区太秦上刑部町10

スケジュール：

5月、6月、7月 内装工事、外構工事

7月、8月 移転作業

8月、9月 運用準備、オープニング準備、企画展準備

10月 オープニングセレモニー

従たる事務所の変更：

6月開催の理事会及び評議員会において定款第2条の所在地変更の予定

・ggg(銀座)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 332 回 2014TDC 展	4/4(金)～4/28(月)
第 333 回 phono/graph 展	5/9(金)～5/31(土)
第 334 回 永井裕明展	6/6(金)～6/30(月)
第 335 回 2014ADC 展	7/4(金)～7/28(月)
第 336 回 ひびのこづえ展	8/4(月)～8/27(水)
第 337 回 ミッシェル・ブーヴェ展	9/3(水)～9/27(土)
第 338 回 セミトラ展	10/3(金)～10/28(火)
第 339 回 ペルソナ50周年記念展	11/5(水)～11/27(木)
第 340 回 荒井良二展	12/3(水)～12/25(木)
第 341 回 浅葉克己展	1/9(金)～1/31(土)
第 342 回 ポール・デイビス(イギリス)展	2/6(金)～2/28(土)
第 343 回 三木健展	未定

・ddd(大阪)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 197 回 指を置く展 (巡回展)	3/12(水)～4/26(土)
第 198 回 2014TDC 展 (巡回展)	5/13(火)～6/20(金)
第 199 回 福島治展 (巡回展)	6/27(金)～7/31(木)
第 200 回 THE NIPPON POSTERS	未定
第 201 回 未定 (京都移転第2回展)	未定

・CCGA(福島)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 62 回 タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.26	3/1(土)～6/29(日)
第 63 回 大阪新美術館建設準備室デザインコレクション展	7/5(土)～9/7(日)
第 64 回 タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.27	9/13(土)～12/23(火)
冬期休館 (第 26 回 田善顕彰版画展 2/8～2/14 予定)	12/24(水)～2/28(金)
未定	3/1(金)～

ggg、ddd の入場料は、無料とする。CCGA の入場料は、有料(一般 300 円、学生 200 円)とする。但し、以下の方々は無料とする。

小学生以下と 65 歳以上の方、及び障がい者手帳をお持ちの方、地域の教育関係者(教員、学生)の教育を目的とした団体、オープニングイベント参加者、有料の講演会、映画会等への参加者 他

3. 教育・普及事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等に関するセミナーの開催、刊行物やインターネット等を通じた情報提供等の教育・普及活動の実施。【定款 第4条(4)】

グラフィックデザインならびにグラフィックアート等に関する知識・関心を、一般の方々に広げることが目的に、講演会、対談、図書等の刊行、インターネットを通じた情報配信を行なう。

平成26年度、ggg Books は5点、ggg Books 別冊は1点を発行予定。アニュアルレポートは、8月に発行予定とする。

ggg Books の電子書籍版の発行も継続し、新たな販売促進の方法やフォーマットなどの検討を行なう。

ギャラリートークは、無料動画ネット配信により、来場できなかった不特定多数の方々が広く参加できるものとする。

須賀川CCGAにおいて、地元の版画文化振興と連携して版画工房ワークショップと版画工房の一般開放を継続実施する。また、CCGAのFaceBookサイトの運営を活性化し、ネットワークコミュニティを通じた活動告知もおこなう。

また、田中一光アーカイブを活用して、同氏の作品と業績に関するグラフィックデザイン界およびデザイン史における位置づけを、国際的な視野のなかで、広く調査・研究する。まず、海外のデザイナー、デザイン評論家等のインタビューをおこなう。

・図書の刊行:

平成26年度は、展覧会と連動し、作家の作品集「ggg Books」を4点(発行予定作家:永井裕明、ミシェル・ブーヴェ、セミトラ、ポール・デイビス)、「ggg Books 別冊」を1点(発行予定作家:浅葉克己)発行する。

田中一光アーカイブを活用した田中一光インタビュー集の刊行準備。

電子書籍の発行

・アニュアルレポート発行:

平成26年度は、「アニュアルレポート 13-14」を8月に発行し、翌年度刊行する「アニュアルレポート 14-15」の企画・編集を開始する。

・ギャラリートーク:

平成26年度は ggg(銀座)で12回以上、ddd(大阪・京都)で5回以上開催予定。

また、セミナーは、原則としてインターネット(ユーストリーム)を通じて不特定多数の人に向けて配信する。

・ホームページ:

不特定多数の方に向けて、新鮮な情報発信を行う。インターネットを活用した展覧会の予告、開催状況、ギャラリートークの予告、電子書籍などの告知、研究助成プログラムの告知・申込みなどに活用する。

また、スマートフォンやタブレット端末の普及拡大をふまえ、将来のネット利用者の環境に合致したホームページのリニューアル検討に着手する。

・版画工房ワークショップ: 3回開催予定

=5月開催予定 エッチング講座

=7月開催予定 木口木版講座

=11月開催予定 木版講座

4. 国際交流事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とした国際交流を行う。【定款 第4条(5)】

平成26年度は、gggにて2回の海外作家の展覧会を開催して、海外のグラフィックデザイン事情を紹介する。海外作家らの講演会を、展覧会活動と連動し、来日日程に合わせて開催する。

国内の他のグラフィック団体(東京アートディレクターズクラブ(ADC)、東京タイプディレクターズクラブ(TDC)等)と連携し、企画展の巡回先を検討する。

また、世界27カ国のトップデザイナーによって構成される国際グラフィック連盟(Alliance Graphic International)の日本事務局のサポートを継続し、海外作家との情報交換を積極的におこなう。(AGI総会は、8月18日～8月23日にブラジル・サンパウロで開催予定)

・ミッシェル・ブーヴェ(9月、フランス)、ポール・デイビス(2月、イギリス)の企画展を開催し、作家のみならず各国の大使館やコーディネーターなどとの文化交流を促進する。

・AGI 日本会員向けホームページの運用サポートを継続する。

・ADC 展のヨーロッパ巡回開催

会場: フランクフルト市立応用芸術博物館

会期: 平成26年4月10日～8月17日

(4月9日 オープニング・レセプション) 予定

5. 研究助成事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とした芸術文化活動に対する顕彰及び助成。【定款 第4条(7)】

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を対象としたコミュニケーション、印刷複製、表現の理論、技術、知識、歴史などをテーマとする研究に対して年間を通じた研究助成プログラムを開始する。また、CCGA(須賀川市)周辺で開催されるグラフィックアートに関連する文化事業に対して従来から行ってきた協賛を継続する。

本研究助成プログラムの推進のために、専門的な知見・見識を有する委員で構成された審査委員会を設置し、委員会によって助成対象となる研究テーマを選考する。年間を通じたものとして年度単位で募集・選考・成果報告・発表を継続的に実施していくものとする。助成テーマの募集は、インターネットやチラシなどによって行い、国内外の研究者による研究を対象とする。

当財団が保有するアーカイブ資料・データベースを活用した研究テーマについても助成対象とし、当財団のアーカイブ事業の充実にも反映させる。

スケジュール(予定)

5月 研究助成テーマ募集スタート

7月 応募締め切り

8月 審査委員会の開催

10月 採択テーマの発表(発表後1年6ヶ月で成果の提出)

以上